

交流ミーティングin東京開催報告

平成28年6月11日（土）～28日（火）に
3331 Arts Chiyoda（アーツ千代田 3331）で開催しました！

東日本大震災から5年が経ち、東北では復興に向けた前向きで新たな取組が数多く生まれています。そうした取組に携わる方々に焦点を当て、復興の現状、被災地の「今」をお伝えすることを目的に、交流ミーティングin東京～「新しい東北」を創る人々～を開催し、延べ約2,000名の皆様にお越しいただきました。

※交流ミーティングの模様は協議会のウェブサイト（http://www.newtohoku.org/works_detail_020）でも紹介しています。

「新しい東北」マルシェ（6月11日（土）～12日（日））

被災地で「ストーリー」を持って復興に携わっている有限会社マルコシ商店、株式会社十文字屋、マルヤ水産株式会社、山徳平塚水産株式会社、株式会社丸光製麺、御稲プライマル株式会社、のり工房 矢本、株式会社フカコラ美人をお招きし、東北の美味しいもの・特産品等を販売しました。また、観光庁による「東北六県 見るもの・食べもの・買いもの100選」クイズを実施しました。

そのほか、出展者によるプレゼンテーションや座談会など、来場者の皆様と交流を図るプログラムも実施しました。

～参加者の声～
マルシェを通じて、人間が生きていく上で大切な、食を通じた人と人とのつながりを強く感じた。

「若者」DAY（6月12日（日））

小泉進次郎衆議院議員・宮田亮平文化庁長官から挨拶および来場の学生へ向けたメッセージを頂いた後、「学生作文コンテスト受賞者表彰式」、「ボランティア促進キャンペーンポスターキャッチコピー受賞者表彰式」を開催しました。

また、岩手県立大槌高校、宮城県石巻西高校、福島県立ふたば未来学園高校の生徒や、東京学芸大学附属小金井中学校の生徒が復興について学び感じたことを発表した後、特別参加のAKB48が歌とダンスを披露するとともに、復興に関する想いを語り、取組発表を行った生徒達を応援しました。

その後、取組発表を行った生徒達、AKB48、高木宏壽内閣府大臣政務官、宮田亮平文化庁長官が、会場に来場した皆様と一緒に、東日本大震災の経験を乗り越えて、日本の未来をどう作っていくかなどについて、意見交換を行いました。

最後に、「今だからこそできること～復興の先を見据えて～」をテーマに、復興支援ボランティア活動を行う学生が全国各地から集まり、グループに分かれてそれぞれの取組内容や今後のボランティア活動について議論し、これからの東北復興を考えました。



＜ カホーン演奏 ＞

「アート」DAY（6月19日（日））

コミュニケーションディレクター佐藤尚之氏による「仮設住宅美田園サインアート」や、アートディレクター福島治氏による「祈りのツリー」等の事例をトークショーにて紹介したほか、石巻で働く様々な職業の「イケメン」を撮影した気鋭の女性写真家である田頭真理子氏によるトークショーも実施しました。

また、カホン職人の青沼義郎氏による「みんなでたたこう！カホン演奏」や、ダンボールアーティストの今野英樹氏による「みんなで学ぼう！防災ダンボールジオラマ」、こけし職人の林貴俊氏による「みんなでつくろう！こけしづくり」を開催しました。



＜ パネルディスカッション ＞

「女性活躍」DAY（6月26日（日））

被災3県で活躍する女性たちの取組や活動内容について、現地で精力的に活動する神谷未生氏（一般社団法人おらが大槌夢広場事務局長）、兼子佳恵氏（NPO法人石巻復興支援ネットワーク代表理事）、日塔マキ氏（女子の暮らしの研究所代表）にお越しいただき、それぞれご講演いただきました。

また、若松謙維復興副大臣の挨拶の後、復興において女性が活動することの重要性や、全国の地域活性化に伴う女性の活躍について、田村太郎氏（一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事）をファシリテーターに招き、飛田敦子氏（認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸マネージャー）、神谷氏、兼子氏、日塔氏にパネリストとしてご登壇頂きパネルディスカッションを行いました。



「新しい東北」写真展（6月11日（土）～28日（火））

「『新しい東北』を創る人々」をテーマに、復興に取り組む「人」に着目し、復興の現状を表した写真を数多く展示しました。写真家である立木義浩氏、橋本照海氏、中井精也氏、宮原夢画氏、田頭真理子氏などの作品や、フォトノマキフェスティバル受賞一般作品、3.11 from KANSAI 2016展示作品、Yahoo! JAPAN東日本大震災写真保存プロジェクトにおける作品、一般からの募集作品が展示されました。

～参加者の声～

被災は終わったことではなく、これから新しく変化していかなければいけないことだと感じました。

～参加者の声～

色んな人が色々な形で記録、記憶に残しているなと思いました。

関係団体との連携企画

「被災地ではたらき方を体験しよう！」（6月18日（土））

復興庁宮城復興局主催で、復興支援インターンに参加した学生による報告会及び、今年度、復興庁が実施する被災地滞在型プログラムについての説明会を実施しました。また、東日本大震災以降、被災地に移り住み、独自のキャリアを築く植原正太郎氏（NPO法人グリーンズ）をモデレーターに、小林峻氏（一般社団法人まるオフィス）、黒沢惟人氏（NPO法人wiz）、白川佑希氏（NPO法人アスヘノキボウ）、島本幸奈氏（一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン）を招き、トークセッションを実施しました。また、被災地滞在型プログラムに関する大相談会も開催しました。

「東京から、東北の今とつながる」（6月21日（火））

一般財団法人地域活性化センター主催で、被災地における伝統芸能の力を感じ、東北のお祭りへ関心を持ってもらうことを狙いに、ワークショップ「岩手県一関市『行山流舞川鹿子踊体験』」や、講話「『三陸国際芸術祭』について」、ディスカッション「郷土芸能の魅力、東北の未来に向けて」を開催し、高木毅復興大臣が活動を視察しました。

また、宮城県石巻市にて、震災後、まちづくりや生業、人のつながり等を支える活動を行っている方々を招き、参加者も含めたトークセッションを行いました。

<行山流舞川鹿子踊体験>



「津波災害を受けた仙台市東部沿岸地域の利活用を考えるアイデアソン」（6月21日（火））

ヤフー株式会社主催で、仙台市東部沿岸の合計約60ヘクタールの集団移転跡地の利活用について、被災した沿岸部の新しい魅力発信につながるアイデアを創出するアイデアソンに参加者で実施しました。

また、高木毅復興大臣が会場を視察し、挨拶をしました。

<論文大賞表彰式>



「第1回 現場で役立つ復興論文大賞表彰式・記念フォーラム」（6月24日（金））

公益財団法人地域創造基金さなぶり主催で、復興や震災に関わる調査・研究成果についての論文公募で大賞を受賞した方へ表彰を行うとともに、「民間助成財団と助成について」と題した記念フォーラムを行いました。

「地域の魅力を映像で発信する Creative Summer Camp 2016」（6月25日（土））

一般社団法人my Japan主催で、夏の映像制作型キャンププログラムで、講師を務めるCMディレクターの中島信也氏（東北新社）をお招きし、フランスのカヌヌから音声で出演した河尻亨一氏（銀河ライター）と共に、「見て貰える映像の創り方」「アイデア」をテーマにトークセッションを行いました。

「東京ダイアログ2016～復興と日常の課題の間で考える支援のかたち…企業×NPO」（6月27日（月））

一般社団法人みやぎ連携復興センター主催で、岩手県、宮城県、福島県の連携復興センターと企業担当者から協働の現状と課題について報告するとともに、参加企業同士で情報交換を行い、今後取り組みたいアクションを考えるワークショップを実施しました。また、長島忠美復興副大臣が来場し、3県連携復興センターの取組発表を視察しました。

～ご協力・ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました～

お問い合わせ

※ 当イベントの開催は、復興庁からみずほ総合研究所へ委託しています。

「東北復興月間」イベント事務局（みずほ総合研究所） E-mail: nt-info@mizuho-ri.co.jp TEL: 03-3591-8773（平日9:30～17:30）

主催：復興庁

